

実践

税務調査

税理士 牧野 義博



繁华街にあるとんかつをメインとする飲食店に法人税の調査が入りました。いわゆる現金商売の場合には、実態を確認するのが困難なことから、現況調査（無予告調査）により調査に着手するのが定番となっています。早速、調査の状況を見ていきましょう。

現金監査と数量計算示

調査官 ○○税務署の者ですが、法人税の調査に伺いました。

代表者 事前に連絡がないので今日は対応できません。

調査官 今日は会社の経営実態の確認が主なので、帳簿等の調査は行いません。商売のお邪魔にならないよう短時間で終わらせますので、ご協力ください。

代表者 早くすませてよ。

調査官 それでは現金監査を行いますので、昨日までの金銭出納帳の現金残高の確認と、レジにある現金及び手持現金の照合を行います。

代表者 さっき仕入で現金出金をしているがそれはどうするの。

調査官 納品伝票等で現金出金が確認できるように準備をお願いします。

調査官 社長。照合の結果、現金が不足していますがどうしてですか。

代表者 ……………。

調査官 現金が不足しているということとは、売上を抜いた後ともとれますね。

代表者 ……………。

調査官 とんかつがメインのようですが、特によくでるメニューは何ですか。

代表者 夕方から夜にかけてはロースカツとビールの組み合わせが多いね。

調査官 売上の的には昼間より夜のほう

が多いということですね。売上伝票は年間分保存をしていますか。

代表者 ありますよ。

調査官 ビールの売上も多いようですが、期末の棚卸は実地で行っていますか。

代表者 全部私時間が区切って棚卸しをしています。

調査官 それでは1年分の売上伝票と、酒屋から仕入れている納品伝票を用意してください。

代表者 何を始めるのですか。

調査官 現金監査で現金が不足していることから、1年間のビールの数量計算を行い誤差がどのくらい発生するか検証したいと思います。後日、お願いした売上伝票と、酒屋から仕入れている納品伝票を預りにまいりますので、揃えておいてください。

代表者 ……………。

調査官 調査官は預かった原資記録からビールの期首棚卸数量と期末の棚卸数量を特定し、売上伝票から1年間のビールの消費量を計算した結果、期首棚卸数量プラス酒屋からの仕入数量からビールの売上数量を差し引いた数量が期末棚卸数量と一致すべきところ、何と4000本も不一致が発見されたのです。



イラスト 渡辺 正義

調査官 社長、ビールの売上数に4000本の開差ができました。これにロースカツとの組み合わせで見ると、かなりの売上除外が想定されます。そろそろ本当のことをお話しいただけませんか。

代表者 売上除外をしていたことは認めます。除外分は私名義の預金にしました。

かなりの手間はかかりましたが、現金監査を端緒として、数量計算により動かぬ売上除外の証拠が捕捉された事案でした。